遠回り

《第23号》
認定NPO法人ロシナンテス
発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL：093-521-6470
E-Mail：info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス ROCINANTES

ワッド・シュウェイン村の診療所に水を！新しい水事業開始



いつもあたたかいご支援を誠にありがとうございます！今回は、スーダンで新しく着手する予定の水事業についてお伝えします。

ロシナンテスは、人々の健康を守るには、安全な水の供給が最も重要な取り組みの一つであると考えています。診療所を建設したワッド・シュウェイン村では、安全な水を入手することが難しい状況にあります。そのため今回、診療所の運営をサポートすべく、新たな水事業に取り組むことになりました。

スーダンの水事情

国土の大半が砂漠地域であるスーダンは、年間を通じて雨が少なく、南スーダンとの国境付近の年間降水量は最大600ミリ程度ありますが、首都ハルツーム付近では約150ミリ、エジプト国境付近では25ミリ以下と北上する程少なくなります。東京の年間平均降水量が1500ミリですので、比較するといかに乾燥した地域であるかが想像しやすいかと思います。

水が貴重なスーダンにおいて、水を確保する手段は地域によって異なります。まずはその手段をご紹介します。



1 表層水

有名なナイル川は、エジプトからスーダンに流れ込み、アトバラ川、青ナイル川、白ナイル川といったいくつかの支流に分かれます。川の付近の住人は川から飲料水や生活用水を確保します。

首都ハルツームの中心部では、多くの家庭で水道設備が整っています。しかしながら、多くの村落部では、水道の恩恵を受けられず、直接川の水を利用しています。川の水は人や家畜の排泄物など、様々なもので汚染されており、飲み水として衛生的ではありません。

2 地下水

川から離れた村落では、井戸などの地下水が利用されています。スーダンの地下水は深いところにしか存在せず、井戸の掘削が大変な作業となります。また、水を引き上げるにも、電気の通っていない村落部では発電機やソーラーパネルでポンプを動かす必要があり、費用がかさみます。コミュニティーだけで費用を工面するのは容易ではないため、ロシナンテスはこれまで複数の井戸掘削と給水所建設を行い、安全な水の供給に取り組んできました。

3 ハフィール

河川のような表層水や、地下水がない地域では、ハフィールと呼ばれる雨水貯水用池が利用されています。雨季の6月～9月（地域や年にもよりますが）に降る貴重な雨水を貯水し、残りの乾季に飲料水、生活用水として活用するのです。

貴重な水源ハフィール

そのハフィールには、旧タイプと新タイプの大きく分けて2種類があります。

旧タイプのハフィールは、フェンスや水を浄化するシステムがなく、大きな水溜まりのようなものです。動物の侵入を防ぐフェンスがないために、住民に加えて牛、ロバ、ラクダ、ヤギ、羊などの家畜の日常的な水飲み場となり、動物の排泄などで水が汚染されます。また、水を浄化するフィルターなどもないため、人々は汚染された水を飲むことになります。見るからに濁度が高く、かつ異臭を放っている水であっても、他に水を確保するすべがないのです。

改良が重ねられた新タイプのハフィールは、動物がハフィールに侵入できないようにフェンスで囲われ、砂ろ過フィルターが設置されているものが多いです。これらの設備があるだけでも、水質は格段に向上すると言われています。



旧タイプのファフィール



人が水を汲む横で動物が排泄

「排泄するロバの横で水くみ…スーダンのハフィール」
QRまたは下記アドレスより動画をご覧頂けます。
www.youtube.com/watch?v=vpPKHVPZfSs

診療所運営のサポート

ロシナンテスは2016年～2018年にハルツーム州シャルガニール地域ワッドアブサーレ区の3つの村で診療所を建設し、すべて保健省へ引き渡しました。昨年末に保健省職員と共にこれらの診療所を視察したところ、ワッド・シュウェイン村の診療所が、運営にあたっていくつかの課題を抱えていることが分かりました。そのうちの一つが「水」の安定供給でした。この水に関する課題を何とか解決したいと考え、情報収集を開始しました。

実は、ロシナンテスはこの地域での安全な水の供給のために、2018年に井戸の掘削および給水所の建設を計画し、村内の8か所で地質調査を実施しました。しかし、結果的にこのエリアに地下水がないことが判明し、断念した経緯があります。

ハフィール改修により、安全な水を届ける

この地域の人々の水源を調べ直したところ、給水車での他の村からの水の購入か、診療所付近にあるハフィール利用のいずれかであることが分かりました。ハフィールは、村のほぼ同地点に2つ存在しており、1つが旧タイプ、もう1つが新タイプのものです。本来、フェンスやフィルターシステムの完備された新タイプのハフィールが利用されるはずと思われますが、新タイプのハフィールにはいくつかの不具合があるために使われておらず、汚染が著しい旧タイプのハフィールが利用されていました。

人々の話を聞いたところ、ハフィールの水は自宅に持ち帰った後、煮沸など水処理を行わずにそのまま飲み、結果的に慢性的な下痢など、この水が原因となっている病気が多く発生している状況でした。

ワッド・シュウェイン村では地下水がないため、一度は井戸の水を諦めざるを得ませんでしたが、今回、既存のハフィールの改修を行うことで水の安全性を高めていきます。加えて、地域の人々にハフィールの運営やメンテナンスのトレーニング、家庭での水処理に関する健康教育を行い、人々の健康への意識向上にも貢献していきたいと思います。

ハフィールの改修により、安全な水が診療所でも利用できるようになり、ひいては診療所の運営を軌道に乗せることを目指します。



新ハフィールはあちこちに不具合が…

事務局だより

こんにちは、ザンビア駐在員の田中です。今、ザンビアへと向かう飛行機の中から執筆しております。雲の下から朝日が昇ってくる様子がとても美しいです。今回はザンビア人の素敵なところを紹介します。真っ先に思い浮かぶのは、「おもてなし」の心です。日本でも数年前にこの言葉が流行りました。ザンビア人の家庭に招かれると、家に来たお客さんに気持ちよく過ごしてもらいたい、歓迎したいという心がとても伝わってきます。そんなザンビアの人々の優しさに助けられながら、私たちはザンビアに暮らして、仕事をすることができています。自分たちの国に来てくれた人に喜んでもらいたいという思いは、日本から遠く離れたザンビアでも同じですね。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテえになれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。

今後もこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

ロシナンテス応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科
医療法人 明会
岩本クリニック
理事長　岩本拓也
北九州市小倉南区中貫一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!
税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科／消化器内科／リウマチ科
柏木内科医院
院長　柏木 陽一郎
〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943 / http://www.kashiwagi-naika.com/

リラクゼーションサロン
Retreat リトリート
高齢者向け訪問型エステサービス始めました。
詳しくはお気軽にお電話ください。
北九州市小倉北区香春口2-2-16
TEL 093-967-1166
OPEN／12:00～22:00　http://retreat-kokura.com/

クレジットカードで！継続的な寄付の申し込み

やってみたいけれど、手順がよく分からなくて…というお問い合わせをよくいただきます。
そんな方に申し込みの流れを詳しくご紹介します！

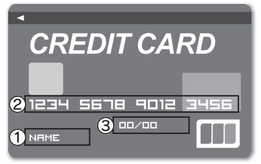
まずはロシナンテスのウェブサイトへ
QRコードもしくはURLから
ロシナンテス 検索
https://www.rocinantes.org/

1 画面右上 オレンジ色の をクリック ＞今すぐ支援する



2 表示された申込画面に必要情報を入力

1.クレジットカードのタブを選択
※青いタブになっていたらOKです。
2.カード情報を入力
①カード名義（アルファベット）
②クレジットカード番号（14～16桁）
③カード有効期限（月/年）
※いずれもクレジットカードの表面に記載されています。



3.ご寄付金額を選択
4.お名前など基本情報を入力
※[必須]の項目は必ずご入力ください。
※メールアドレスは決済結果など大切なお知らせ先となります。

ロシナンテスの活動は皆さまのご寄付に支えられています。
世界と日本の子どもたちの明日の笑顔のために、
皆さまのご協力をお願いします。

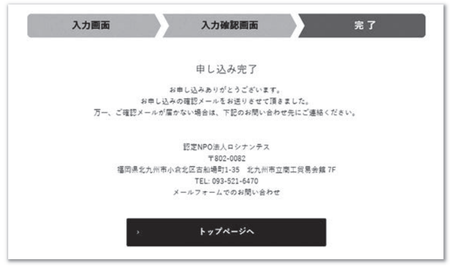


3 画面下部の青いボタン ＞確認画面へ をクリック

（クリックしてもまだ申し込みは完了しません）
※エラー等何かお知らせが表示されたら入力内容を修正してください。

4 表示された申込内容を確認し、画面下部オレンジ色のボタン ＞上記の内容で送信する をクリック

「申し込み完了」画面が表示されたらOK！
…ですが、あともう一つだけ！



5 メールを確認

届いたメールの件名が
「継続的なご支援をありがとうございます」
でしたら、お手続きは成功です！パチパチ！

※上記以外は不備のためお手続きが出来ておりません。メール内容を確認し、再度お申し込み願います。
※メールが届かない場合はメールアドレスの誤りや迷惑メール等へ振り分けられることがありますのでご確認ください。

いかがでしたか？ご不明な点等ございましたら、ロシナンテスまでお気軽にご相談ください！

割賦販売法の改正に倣い、クレジットカードでの継続的な寄付申込はウェブサイトのみとなりました。
銀行口座自動振替は、これまで通り郵送でお手続きできますのでどうぞご利用ください。

新しくロシナンテになったスタッフのご紹介



ザンビア事務所スタッフ
田中悠太

過去に自分自身がザンビアの村落部に暮らした経験から、僻地医療の課題に取り組んでいきたいという思いが芽生え、ロシナンテスに入職致しました。現地の方々とのコミュニケーションを大切にしながら業務に邁進していきます。よろしくお願いいたします。



ザンビア事務所インターン
池田裕亮

世界の農村部における医療アクセスの改善に関心があります。様々なフェーズにて、多様な視点から現場の実情を学ばせて頂いております。どのように現地の人を巻き込み、真のニーズを掴み、現状を改善していくか。熟考してまいります。

スーダンだより
Sudan
灼熱の大地で奔走する
ロシナンテたちの〝いま〟



包括的な支援を！
学校建設事業に着手

【念願の事業再開】

開発途上国の村落部は、電気や水といった社会インフラの不足、医療へのアクセスの困難さ、衛生環境とその知識が普及していないなど、様々な問題をかかえています。多岐に渡る課題の中からひとつの課題を解決するだけで地域社会全体の暮らしがよくなるわけではありません。ロシナンテスでは、以前から特定の地域で複合的な課題に対して支援を行い、地域社会全体の暮らしの包括的な向上を目指したいと考えていました。

前号で、スーダン中部に位置する北コルドファン州オンムダム・ハージ・アハメド地域オンムサマーマ区オンムサマーマ村に給水所が完成したことをお伝えしました。この水事業は、将来的に保健事業などを見据えた統合事業の一環として実施。水事業と平行してオンムサマーマ区での調査を行い、地域からもニーズの高かった学校建設に向けて準備を行っていました。

しかしながら、2019年4月の前大統領解任に続き、6月にはスーダンの情勢が不安定となり、日本人駐在員は国外退避を余儀なくされ日本に帰国することになりました。遠隔での事業実施も検討しましたが、オンムサマーマ区は安定したインターネット通信がなく、やむなく学校建設事業は中断することになりました。

その後、スーダンの情勢は落ち着いてきており、事業を再開することになりました。地域住民にとっても、ロシナンテス職員にとっても待ちに待った再開です。そこで、先日現地スタッフ、関係省庁の職員、現地パートナー職員とともにオンムサマーマ区を訪問してきました。

【学校の様子をご紹介】

まずは、この地域のスーダンの学校がどんな様子かご紹介したいと思います。スーダンの都市部同様、校舎はセメントブロックや赤レンガで作られています。

オンムサマーマ区の土地は砂が多く、激しい嵐で砂が吹き飛ばされ、基礎が露出してしまうことがよくあります。教室は簡素な空間で、床は砂地という学校も多いようです。


校舎の外観


基礎が見えている校舎の一角


先生が住んでいる藁葺小屋

学びの場であるため、日本の学校同様、黒板が設置されています。先生の人数が少ないため、職員室は日本の学校ほど広くなくコンパクトな造りです。日本の学校には敷地を囲うフェンスがありますが、オンムサマーマ区ではフェンスのない学校が多く、動物が学校に入って来て授業が妨害されることもあります。他に日本の学校ではあまりなじみがないものとして、教員寮があげられます。オンムサマーマ区は、北コルドファン州の州都から未舗装の道路を車で3時間程度の場所にあります。スーダンの村落部には公共交通機関がなく、省庁から派遣される教員は学校に通勤する手段がありません。そこで、地域の人々が協力し、教員寮を準備します。校舎のようなブロックやレンガは資金が嵩むため、ロシナンテスが事業を行う学校では、先生は藁葺小屋に暮らしています。雨季や冬はとても寒く、砂嵐の日には砂が舞い込み困難を抱えた暮らしとのことでした。

【過酷な学びの環境を改善したい】

ロシナンテスの学校建設事業では、学校の校舎やトイレ、フェンスの改修、建設と水環境の改善を行っていく予定です。現在のオンムサマーマ区の学校は、子どもが安全に、快適に学べる環境とは言い難い状況です。校舎は既にありますが、教室や机、椅子が不足し、床に座って勉強しています。

既存の教室も老朽化していて、壁が崩れて穴が空いているところも多数あります。また教室が足りないため、気温40度以上になる過酷な環境の中、藁葺小屋や屋外で授業を受ける生徒もいます。加えて、学校にトイレがなく、トイレの度に家へ帰ったり、屋外で用をたしたり、トイレを我慢したりしています。学校を囲むフェンスがないため、学校敷地内が動物の糞尿で汚染されています。水環境としては、トイレの後に手を洗う水や飲み水を貯めておくタンクも不足しているため、衛生面や健康面でも課題があります。

困難な環境で学ぶ子どもたちのため、安全で快適な学習環境の整備と、学校での衛生環境の改善を目指し、学校建設事業を実施する予定です。学校完成後には、先生や生徒、地域の人々に学校や水タンクのメンテナンス方法、トイレ後の手洗いなどを伝え、教育という側面だけではなく衛生という観点からもアプローチしたいと考えています。地域の人々、子どもたちが安心して暮らせる環境を整えていきたいと思います。


砂の上に座って授業を受ける子どもたち

壊れたタンク

アルテケラット村給水所のその後



【完成から約1年半】

2018年7月に完成し、完成から約1年半経ったアルテケラット村の給水所の今をレポートしたいと思います。車で到着すると、たくさんの村人が出迎えてくれました。

給水所の設備は問題なく可動していて、タンクの中にはたくさんの水が蓄えられています。給水所の完成後、地域住民による水管理委員会を組織し、代金を支払って購入する仕組みを取り入れ運用を行っていました。これまでこうした給水所で出た収入は省庁が管理することが一般的でした。しかし省庁の管理下にあると、都市部から離れている地域では、故障した際にすぐ対応してくれない、メンテナンスが十分でない、といったことが起こりやすいことから、地域の水管理委員会が水収入も含めて管理していきたいという思いを持っていました。

【自分たちの手で管理していく】

そんな中、今回の訪問で嬉しいニュースを聞くことができました。政変以降省庁の体制が変わり、現在は水収入の管理も含めて100%全て地域の水管理委員会で運営できるようになったそうです。そうすることで、収入の中から給水所の維持管理費用を捻出するなど、自分たちの給水所を自分たちで守るという主体的な意識がより強固になります。

スーダンではロバを使って水を運ぶ場面をよく見かけます。ちょうど、かわいい女の子2人がロバに乗って給水所に水を汲みに来ていました。生活用水として引き続き利用されていることを目の前で確認することができました。

また、給水所完成後、周囲に植物を植えたいという話が住民から出ていましたが、なんと、オクラが採れるようになったそうです。ロシナンテスが訪問した際に、嬉しそうに採れたオクラを持ってきてくれました。

この給水所が今後も住民たちによって長く管理運用され、水に困らない安心な暮らしが続いていけるよう、引き続き見守っていきたいと思います。



今度こそテロ支援国家指定の解除なるか？
厳しい現状のスーダンに今こそ支援が必要

こんにちは、理事長の川原です。いつもあたたかいご支援をありがとうございます。

昨年30年間大統領の座にあったバシールが解任され、新しい政権（暫定）が誕生したスーダン。過去のしがらみを絶って、民主化して大きく羽ばたきたいと国民は望んでいますが、負の遺産も受け継いでいく悲しい運命にあります。その一つは米国からテロ支援国家に指定されていることがあげられます。スーダンが指定されている理由として、過去にスーダンがウサマ・ビンラーディンをサウジアラビアから追放された時に匿い、のちにスーダンを舞台としてアル・カイーダが組織されたことが原因と考えられます。

解除の可能性があったあの時

今までにテロ支援国家指定解除がなされる可能性が少なくとも2回ありました。ひとつは原油資源の大半を占めている南スーダンが認めた2011年です。スーダンの国家収入が減少し、国土が半分近く削られることにより国力の減少につながり、テロ支援の余力がなくなると考えられましたが、指定解除には至りませんでした。もうひとつは、南スーダンの紛争の時に介入をせずに、さらに米国とのテロ対策で協力関係を築いた2017年です。この時は米国からの経済制裁の解除はありましたが、残念ながらテロ支援国家指定解除に至りませんでした。

暫定政権の抱える大きな課題

米国からの経済制裁が解除されたものの、長年の制裁が影響しているのか経済の悪化に歯止めがかからず、2018年末から反大統領の大規模デモが起こり、2019年4月にバシール大統領は軍から解任されました。暫定期間を設け、民間人と軍部とで構成される最高評議会（暫定統治機構）がスーダンの政治を司っていくことになっています。現在議長は軍人が就任していますが、暫定期間の後半は民間人が就任予定です。なお、最高評議会から指定されたハムドック首相は民間人で、国防省と内務省を除く大臣は民間から選ばれています。

暫定政権が抱える課題の中でも大きいのがテロ支援国家指定の解除です。バシール前大統領を解任した今こそ良い機会であると、ハムドック首相が昨年末米国へ渡航し指定解除に向けた交渉を行いました。その際に米国からいくつかの条件が出されましたが、そのひとつが2つのテロ事件に関しての金銭的な補償です。

テロ支援国家指定解除の条件

2000年に米国の駆逐艦がイエメン沖でアル・カイーダからの攻撃を受けた件は、スーダンが米国に補償金を支払うことで合意しましたが、1998年に起きたケニア、タンザニア米国大使館爆破事件は、合意に至っていません。駆逐艦の賠償額は数億円でしたが、大使館事件の方は数千億と言われています。解除に向けては、この賠償ができるかどうかが問題です。

その他は、テロリストとの関係を断つこと、スーダン国内の和平の定着、人道委員会の設置、人道援助へのアクセスの保証といった条件が出されています。

外交断絶していたイスラエルと急接近？

他にも大きな動きが見られます。今年2月、スーダンの最高評議会議長がイスラエルのネタニヤフ首相と協力関係を築くためにウガンダで会談を行いました。米国と強い結びつきがあり、パレスチナ問題でイスラム諸国と敵対するイスラエルの首相とスーダンの首脳が会うということは驚愕のニュースとして世界に流れました。旧来のイスラム原理主義者は、この協力関係に基づきスーダンがイスラエルや米国に牛耳られると批判していますが、大多数の国民はイスラムと異宗教との融合する新たな社会を目指すべきであるとし、イスラエルとの関係構築に賛成しています。

踏ん張り時のスーダン

米国からの経済制裁、テロ支援国家指定というのは国の発展を大いに妨げるものです。経済制裁解除から2年が経過して、米国資本のケンタッキーフライドチキンとピザハットがオープンしたことが目に見えての変化ですが、この他にも国際銀行間送金の時間的な短縮があり、クレジットカードのVISAがスーダンの銀行から発行されるというニュースもありました。

暫定政権の最高評議会には2名の女性が入り、内閣にも多くの女性が選ばれました。政権内の女性の活躍が地方にも良い影響を与えていて、我々が建設した給水所を管理する委員会には、以前は男性のみで構成されていましたが、今では女性も入っています。イスラム社会の中での女性の活躍という素晴らしい効果を生み出している新政権は、3年3ヶ月後の民主的な選挙が行われるまでの暫定的なものとはいえ、紆余曲折しながらも民主化に向けて努力を続けています。しかしスーダン国民は経済的な困窮からまだ脱却できてはいません。今後彼らが痛みをどれだけ耐えられるかが問題です。

だからこそ、スーダンへの支援が今必要であると考えています。スーダンの変革が良い意味で世界に大きなうねりを引き起こすことを期待しています。

スーダンにおける新型コロナウイルスの状況

WHOが新型コロナウイルスをパンデミックと指定しましたが、アフリカでも54カ国のうち半数を超える国から感染者が出ています。

スーダンでは、アラブ首長国連邦から帰国した1名の感染及び死亡を確認しています（3月19日時点）。その後現在まで他の感染例は認められていませんが、対策が強化され、学校の閉鎖、宗教省によるモスクや教会での集会時間の短縮要請などにつながりました。そして3月16日には国家非常事態宣言が出され、空路、海路、陸路のいずれも貨物を除き国境を封鎖する旨が発表されています。

アメリカによるテロ支援国家指定とは

米国務長官により国際的なテロ活動を繰り返し支援していると認定された特定の国家を「テロ支援国家」に指定する措置。金融制裁、武器輸出や経済援助の禁止などが科される。2008年に北朝鮮が、15年にキューバが解除され、現在はシリア、イラン、スーダンの3カ国が指定されている。

スーダンできれいな水を取り戻す
水事業専門家井村さんからみたスーダンの水事情

スーダンで旧式のハフィール（雨水貯水用池）の修復をお手伝いすることになった。これまで企業では、地下水汚染の化学処理や農業用水の不純物除去装置の考案、ジャカルタの大学との共同研究で汚染した河川を微生物による浄化処理などで一応の成果を上げて来た。何れも方法は違うが共通していることは「きれいな水」を取り戻すことだった。

スーダンのハフィールの特徴は、乾季が終わり村人や家畜が水を使い終わる頃に雨季が始まるよう、最大容量を設計するのが理想とされており、それが住民や家畜への供給が途絶えぬ合理的な仕組みである。問題は、水があるうちは修理どころか事前調査も困難であること。完全に干上がってから再び雨季が始まるまでの修復には、事前準備と短期集中が余儀なくされる。今回のハフィールはこれまで私が培って来た水処理に関するハイテク技術が使えない。しかし伝統的な方式や技術にはそれに合った叡知は必ず有る。現地の技術者と議論を重ねお役に立てれば幸甚です。



今回、ユニセフとスーダン灌漑水資源省の主催する新しいスーダンの水活用に関するナショナル・カンファレンスに出席する機会に恵まれた。確かにハイテクを使ったドリームプランも多く紹介されたが、現実としては急激な変化には設備も費用も必要となる。住民ばかりではなく家畜にも十分水を与えねばならない。ハイテクの国から来た日本のエンジニアである私が、逆にスーダンの伝統的ハフィールの良さをスーダンの人々に再認識してもらう場面もあった。

最後に主催者側を代表し立ったヤシル・アッバス大臣の挨拶の後、つい「日本からハフィールの修復に来ました！」と言うと、わざわざ壇上から降りて来て握手を求められた。おまけにお付きの人がツーショットの写真まで撮ってくれて記念に残る1日となった。

写真は、ユニセフとスーダン灌漑水資源省の主催する新しいスーダンの水活用に関するナショナル・カンファレンスに出席した時のもの。ハイテクを使ったドリームプランも多く紹介されたが、現実として急激な変化には設備も費用も必要となる。日本のエンジニアである私が逆にスーダンの伝統的ハフィールの良さをお話する形となった。





母子保健事業始めます！

ザンビア事業部では、２０２０年から中央州チサンバ郡で母子保健事業を開始します。私たちの活動地はチサンバ郡にあるムワプラ診療所がカバーする地域で、ルサカ市内からムワプラ診療所までは車で2時間程度です。

郡保健局との協議およびムワプラ地域の視察の結果、私たちはマザーシェルター建設およびヘルスボランティアの組織強化の必要性を認識しました。マザーシェルターは、出産予定日を目前に控えた妊婦が宿泊できる施設で、数年前から医療施設での出産を義務付けているザンビア政府は、その整備を推奨しています。安全なお産には、助産師など訓練を受けた医療従事者の立ち合いの下、医療施設で出産することが望ましいのですが、ムワプラ診療所まで徒歩で数時間の地域に住んでいる人々が多く、車などの交通手段を確保できる人は大変限られています。診療所の近くに宿泊施設が整備されれば、出産前に診療所のすぐ近くでお産を待つことができ、診療所での出産をより確実にすることができます。

まずは事前調査から

こうした活動を計画していくにあたり、母子保健サービスの受け手である女性たちの声を聴くため、２０１９年11月から12月にかけて聴き取り調査を行いました。対象者は、ムワプラ地域の妊産婦および経産婦。地元のヘルスボランティアたちの協力の下、戸別訪問や巡回診療の機会を利用し、１１９人から回答を得ることができました。回答者の大半はムワプラ診療所か巡回診療地まで歩いて行き、母子保健サービスを受けるのですが、その半数は住んでいる地域から徒歩1時間以内、残りの半数は1時間以上かかっています。巡回診療地でさえ1時間以上歩かなくてはたどり着けないような状況下、出産前に宿泊できる場所がないまま、診療所で確実に出産することは難しいことが想像されます。実際、自宅で出産したことがある回答者は少なくなく、自宅出産の理由で最も多かったのは交通手段がないこと、次いで緊急で診療所へ行けなかったことでした。また、ムワプラ診療所を含む医療施設における母子保健サービスに対する不満として、分娩用のベッドや待機用のベッドの不足が多く挙げられました。





女性たちが安心して出産できる地域に



この聴き取り調査の中でも、マザーシェルターに対する住民側の潜在的な需要が明らかになってきました。マザーシェルターを、妊産婦が確実に利用し安全なお産の役に立つものにするため、現在さらなる聴き取り調査を行っています。利用者の声を反映したマザーシェルターの建設に向け、今後ますます地元住民との連携を密にして活動に取り組んでいきます。

［情勢］治安のよいザンビアですが…

ザンビアは、アフリカ諸国の中で比較的治安の良い国と言われており、この原稿を書いている今も、首都ルサカは落ち着いた様子です。しかし今年2月は、ルサカが穏やかでない情勢となりました。2月初旬、民家に有毒ガスが散布される事態が発生。その後、民家のほか学校や寮でも同様の被害が発生し、さらに、有毒ガスを散布したと疑われる人物への住民による襲撃や警察署への襲撃、暴動が起こりました。被害が発生したのは、収入の高くない人々が住む地域が大半です。ルサカでは警察や軍による警戒措置がとられ、2月のうちに落ち着きを取り戻しました。実はルサカより先に、ルサカ州の北隣のコッパーベルト州で同様の事態が発生していたのですが、その後、他州でも混乱が広がりました。ザンビアにおいて、法律上、罪を犯した人は警察により拘束されますが、人々の中には住民が制裁を加えるという意識を抱いている人もいます。また、芳しくない経済状況や、それによる就職難に対する潜在的な不満が、このような混乱の拡大の一つの要因にもなっています。

治安が良いとされているザンビアのような国でも、いつ何が起こるか分からない。そう強く認識させられた今回の事象でした。気を引き締め直し、安全に十分に注意しながら活動を行っていきます。

日々ツラツラ日記⑤「ザンビア事務所の昼ごはん」

すみっこまで読んでいただきありがとうございます！　ザンビア事務所の堺です。

ザンビア事務所の昼ごはんは、スタッフでお金を出し合って食材を買い、オフィスキーパーのキャサリンに作ってもらっています。最も頻出のメニューは、やはりザンビアの主食、シマ！シマは、沸騰したお湯にメイズ（ザンビアで採れるとうもろこし）の粉を加えて練った食べ物です。見た目はお餅に似ていますが、お餅より少し硬く、手でこねながら食べます。シマには肉や野菜のおかずが添えてあり、野菜のおかずはシマで掬うようにして食べます。次によく出されるのは、お米。おかずはシマの時と同様です。そして、最近食卓に上がるようになったのがパスタ。街中のレストランでもパスタは見かけますが、イタリア人が経営するお店を除けば、大抵は日本人からするとキャサリンもパスタの調理に慣れておらず、ほど良い硬さに麺を茹で上げることから練習中です。今後、キャサリンの料理のバリエーションの増加に乞うご期待です。





助産師さんのお宅にホームステイ！

こんにちは、ザンビア事務所インターンの池田です。2月19日から4日間、ムワプラ診療所で働く助産師さんのお宅にてホームステイをさせていただきました。陣痛が始まったお母さんが運ばれた時の対応を、実際に見て学ぶのが目的です。


助産師さんー家と夕食の準備

診療所の様子を見学

ムワプラ診療所の担当エリアでは、お母さんは陣痛が始まると近くの車を持っている住人に事情を説明してお願いし、車で診療所までやってきます。その際には家族や、母子保健に特化した医療ボランティアも付き添います。診療所にやってくるお産は比較的に簡単なケースが多いです。というのも、診療所にて産前ケアを受けているお母さんたちは、妊娠8ヶ月時に町の病院でエコー検査を受けるよう推奨されており、その結果、帝王切開が必要であったり、診療所で対応できない難産になると診断されたりした場合、より高度な医療を提供できる医療施設を紹介されるからです。しかし村人の中には、経済的な理由などで町の病院に検査を受けに行くことができない人もいて、陣痛が始まり診療所にやってきた時点で、診療所で対応できない難産であると判明することもあります。救急車は町の病院からヘルスセンターまでは来ますが、診療所には来ません。そのような場合には、近くの車を持っている住人にお願いし、町の病院に直接搬送するか、ヘルスセンターまで車で行き、ヘルスセンターから町の病院までは救急車で搬送します。

2人が無事出産！

私の滞在中には2人のお母さんが診療所に出産しにやってきました。お母さんたちは、お産に必要なベッドに敷く風呂敷や手袋などを持参していました。到着後、赤ちゃんの週数や体位、お産の進行度などを確認しました。その後1人は到着してから約2時間後に、もう1人は約3時間後に共に無事出産しました。出産直後にはポリオ及び結核の予防接種が推奨されていますが、診療所では経済的な理由から結核のワクチンは他の病院に任せており、ここではポリオの予防接種だけを行なっています。しかし今回はポリオのワクチンの在庫が切れていたため、1回目の産後検診にてポリオの予防接種を行うこととなりました。

診療所のスタッフの皆さんは、限られた医療資源及び環境の中で、出来る限りの医療を提供していました。現状を改善するために、ロシナンテスとしてこの地域にどのように貢献することができるのか、熟考して参ります。

ザンビアで女性が直面する困難

現在世界中で起こる妊産婦死亡の94％は、中程度又は低所得の国々におけるもので、必要な設備やインフラ、資金不足が大きな原因とされています。中でもザンビアを含むサブサハラ・アフリカ地域の国々での妊産婦の死亡は、3分の2を占めると言われています。ザンビアでは、２００７年は1万人中に５９１人、２０１４年には1万人中に３９８人と死亡率は下がっているものの、世界的に見ると高いままです。現在も1週間で10から15人の女性が妊娠や出産に関連した理由で亡くなっています。

出産の後の多量出血、感染症、分娩の合併症、安全でない中絶、など原因は様々ですが、特に15歳以下の女の子の体はこれらに耐えられない割合が高いため、早期の結婚・妊娠、また性的暴力等による望まない妊娠が問題となっている国では、死亡率も高くなっています。

例えば教育は、選択肢を広げたり、貧困を抜け出したりすることに重要な役割を果たしますが、ザンビアでは小学校を卒業した後も教育を受ける女の子はおよそ37％しかいません。これは学校で、女の子だからという理由での差別やいじめ、身体的な暴力を受けやすいことに加え、合意のない性的な搾取や暴力でＨＩＶにかかったり無理やり妊娠させられてしまったり、早期に結婚や妊娠をさせられてしまうことが大きな原因です。２０１４年の調査では、調査した15～19歳のザンビア人の女の子のうちの17％が結婚をしていた一方、同じ年で結婚をしていた男の子の割合は1％でした。

実はザンビアはサハラ諸国のなかでも、性別が理由で暴力を受けることが最も多い国のひとつだそうです。国連も、性的搾取や早期の結婚などの暴力が近年ますます増加していると警鐘を鳴らしています。一説としてザンビアでは女性に決定権がなく、男性や家長制度に基づく権力に従うべきものとして扱われる傾向があり、それが慣習や法にも反映されているためだと指摘されています。

駐在員のかばんの中身 杉本のサバイバルグッズ

こんにちは、ザンビア駐在員の杉本です。私は海外赴任する時、写真のようなものをトランクに詰めて、携行することにしています。殺虫剤、ごみ袋以外は日本で調達しますが、その他は長年に渡って愛用しているものが多いです。

現地で村など宿泊を伴う出張の際、宿泊先の状況に合わせて、適宜に必要と思うものをピックアップします。

パワーバック（電池）とＬＥＤライトは必ず持参し、停電、電気のない時に備えます。また蚊帳、殺虫スプレー、大きい袋の3点も大抵の場合必須アイテムです。ホテルのマットにダニなどが生息している場合、ベッドシーツを剥がし、殺虫スプレーをして、ごみ袋を切って広げ（1重に）、その上にシーツをかければ、噛まれることを防げます。

村落部のホテルの枕は多くの場合、あまり衛生的ではないので、写真のような空気枕も一緒に持参すれば快適さは増します。さらにシュラフのインナーライナーを持ち込めば、防御は完璧です。そこまで暑くなければシュラフインナーに潜り、寒い時には3シーズン用のシュラフにインナーを入れて潜りこみます。

宿泊先に電気がある場合、電気ラーメンポット（中国製）とキャンプ用食器一式（コップ、お椀、お皿、スプーン、フォーク、ナイフ、お箸）を持参します。朝、お湯を沸かし、コーヒーを入れることから1日が始まります。なんとゆで卵を作ることもできます。夕食はラーメンなどを作って済ませることが多いです。電気がないところには、燃料アルコール用バーナーとラーメンポットを持参します。燃料アルコールは日本から持ってくることはできないので、現地で調達します。

セロハンテープも持っていくといろいろと役に立ちます。破れた窓と網戸に両側から貼れば、蚊、虫の侵入を防げるほか、不具合のあるいろんなものの固定にも使えます。

十徳ナイフ、ハサミ、ワインオープナーがあれば、夕食、晩酌が楽しくなります。

登場する頻度は少ないですが、裁縫セット、ねじ回し、ピンセットはいざというときに便利です。



雲 外 蒼 天

安全に出産できる環境を整えるために

日本における出産の形は、昭和の初期ごろまでは自宅分娩が基本でした。医療資格を持たない器用で出産経験が豊富な高齢女性が産婆さんとして活躍しており、近所の女性たちの力を借りて自宅での出産をサポートしていました。しかし知識や経験は産婆さんによって偏りがあり、また難しい出産に対応できないことも多くありました。その後資格を持った医師や助産師のいる施設での分娩が広まり、1960年以降には50%を超え、1970年代になると95%以上が施設内分娩となりました。もちろんそのことだけが影響しているわけではありませんが、1926年に56・9%だった新生児死亡率は、1975年には7・1%までに低下、未熟児の生存率も向上しました。

とはいえ、近年では住み慣れた住居での出産を希望する妊産婦さんもおり、現在はおよそ20%程度が自宅や助産院で出産しているそうです。出産に対する安全性が高まり、衛生状態や栄養状態も格段によくなったため、妊産婦さんの希望にそった出産を叶えられるようになったと言えるかもしれません。

しかし医療体制や衛生的な面を考えると、途上国での自宅分娩はかなり厳しい状況が想定されます。ロシナンテスが活動を行うザンビアの村落部においても、安全な水や器具が手に入らない自宅で、産婆さんや母親の手で出産が行われることも少なくありません。そのため母体に異変が起きても対処できず、多くの妊産婦さんが感染症や出血多量で命を落としています。

こうした状況を改善しようと、ザンビア政府は自宅分娩の禁止を通達しています。しかし村落部では、病院や診療所が遠いため産気づいてからの移動では間に合わず、自宅での出産を余儀なくされるケースも多くあります。また、出産に関わる費用を工面するのが難しく、自宅分娩を選択する家族もいます。実際政府がこうした方針を掲げていても、国としてその分野に資金を充当することができておらず、すべての地域で「自宅で出産しない」ための十分な体制が整っているとは言えません。

国連が定めた2015年までの開発分野における国際社会共通目標であるMDGs（ミレニアム開発目標）の中で、指標の1つとして「妊産婦の死亡率を1990年の水準の4分の1にする」ということが掲げられていました。その成果として、妊産婦の死亡率は45%減少したそうです。また、医療従事者の立ち合いの下に行われた出産割合は71%にまで上昇しました。しかし、世界の農村部に目を向けると、医療従事者の立ち合いの下での出産は56%に過ぎず、4回以上の妊産婦検診を受けたのは半数のみでした。

そこでMDGsの次なる目標として国連が設定したSDGs（持続可能な開発目標）の中では、母子保健に関する新たな目標が設定されました。具体的な指標としては「2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する」と「すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1000件中12件以下に減らす」というものがあります。この目標を達成するために政府機関や各国の国際協力団体が、様々な活動に取り組んでいます。

妊産婦が安全に出産し、周産期ケアを受けることができる環境を世界共通で作っていくことができれば、SDGsのような世界的な目標を達成することに繋がり、何より人々の笑顔に繋がっていくのではないでしょうか。

日々ツラツラ日記⑥
「数少ない楽しみ〝晩酌〟」







こんにちは、ザンビア事務所の杉本です。

ルサカ市内には、パブなど飲めるところは結構あるのですが、会食以外夜はほとんど出歩きません。唯一の楽しみは、部屋で嗜むこと。ショッピングモールには輸入ワイン、ウイスキーがピンキリで並び、選び甲斐があります。僕は写真の2~3種類を良く飲みます。

ワイン通ではありませんが、OVERMEERの箱とフルボディに惹かれ、良く買ってしまいます。それほど香りはなく、結構苦いです。値段も手ごろで、3ケ月で6箱（30ℓ）を空けました。

以前はチップス、ソーセージ、チーズなどをつまみにしていましたが、最近は写真の豆類（ピーナッツ、大豆、小豆）に塩水を霧吹きしてレンチン食べるのがマイブームです。（ピーナツは6分、大豆は4分、ほかは試行錯誤中…）。少し健康を意識しはじめた、のかな。

EVENT REPORT
国内の活動

REPORT1　2020,01,16

情勢報告会 ＠東京事務所

政権が変わったことで、男性社会に一石を投じる政治的な采配が見られたり、ケンタッキーフライドチキンがオーブンしたり！（今までこうしたアメリカ系の企業はほとんど見られませんでした）と、政治面でも生活面でも様々な変化が起こっています。そんな日々の変化の大きいスーダンの現在の様子や情勢についてお話する報告会を開催しました。



- 情勢は安定、平和なスーダンが戻りつつある。
- 各省庁のトップが変わったが、各省庁内を整理するのには時間を要する。
- 市民は新スーダンへ期待感を持っている。
- しかし経済状況は改善されていない。
- 政権交代が市民生活に変化をもたらしていないことへの苛立ち、経済状況への不満は残る。

といった内容について、背景も含めてお伝えしました。



REPORT2　2020,01,23

水事業報告会 ＠カフェブラディーボ（兵庫）

ロシナンテスはこれまで、井戸の掘削や改修等を行うことで、清潔な水を利用できる環境を整えてきました。

しかし、診療所を建設したワッド・シュウェイン村では、調査の結果地下に水脈がないことがわかりました。井戸が掘れないことがわかったため、井戸以外の方法で水を届ける方法を検討し、ハフィール事業を実施することになりました。（詳細はP1をご一読ください。）

新しい事業を始めるにあたり、いつもご支援いただいている皆さまにご報告すべく、報告会を開催しました。

長年応援いただいているご夫妻が運営するカフェを会場としてお借りしました。お茶やコーヒーをいただきながらの質疑応答は、普段の報告会よりもずっと距離が近づいたためか大幅に時間をこえて盛り上がり、参加者の方からも知見をご共有いただくなど、とても有意義な時間になりました。

カフェを会場として提供してくださったご夫妻。コーヒーやケーキまでご提供いただきました…！いつもあたたかい応援をありがとうございます！



REPORT3

SOCIALSHIP 2019 助成先に選ばれました

SOCIALSHIPとは、NPO・NGO・ソーシャルビジネスなどの非営利活動にウェブサイトや動画、寄付チラシなどを制作し、団体の広報活動をサポートするOSAKA発の"クリエイティブ"制作助成プログラムです。

「自分たちのスキル・アイデア・時間を使って社会に貢献する」という大阪のWEB制作会社リタワークス株式会社さんの想いから、2016年にスタートし、年々幅を広げているプログラムです。

今回ロシナンテスは、"想い"を"映像"にする動画プログラムの助成を受けることとなりました。今まで何度かテレビ番組で取り上げていただいたことはありますが、自分たちで自由に使える動画がありませんでした。ロシナンテスと出会ってくださった方にきちんと私たちの想いを伝えられるよう、素敵なものを作りたいと思います。



新型コロナウイルス対策による イベント中止のご報告

2月24日(月)に開催を予定していた「『僕たちはヒーローになれなかった。』出版記念、葉田甲太×川原尚行対談イベント―国際協力と繋ぐ思い―」及び、3月14日(土)に開催を予定していた「途上国に「医」を届ける。ロシナンテス活動報告会」は、各地で新型コロナウイルス(COVID-19)への感染が拡大する状況を鑑みて、参加者、関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、中止することといたしました。イベント開催を楽しみにしてくださった皆さまには、大変申し訳ございません。

開催の目途が立たないため一旦中止といたしましたが、両イベントとも状況が落ち着き次第で実施する予定です。最新情報はメールマガジン、facebook等でお知らせいたします。※ハガキでのお知らせをご希望の方はロシナンテスまでご連絡ください。

thanks for your cooperation
物品寄付へのご協力をありがとうございます！

遠回り22号とともにご案内のチラシを送らせていただいた物品寄付「お宝エイド」と「つなぐ書店」の取り組み。
なんと毎月15万円をこえるご寄付につながっています。
ご協力いただきました皆さま、ありがとうございます！
「物品寄付」とは、家で不要になったモノが寄付になる取り組みです。捨てられないモノを大切にしてくれる人に譲ることができ、査定額はロシナンテスへの寄付となり、おうちもすっきりします。
新しくブランド品での寄付も始まりましたので、ぜひご検討ください！



本・DVDは つなぐ書店へ
医学や建築等の専門書、読む人が限られるような偏ったジャンルの本は特に歓迎しているとのこと。
https://www.rocinantes.org/file/tsunagu.pdf

貴金属や絵画、骨とう品は お宝エイドへ
カメラや高級洋酒なども受け付けています。切手だけで10万円分ご寄付くださった方も…！
https://www.rocinantes.org/file/otakara.pdf

服やブランド品は ブランドプレッジへ
カジュアルなブランドも受け付けています！ハンカチやタオル、スカーフ等の小物でもOKです。
https://brand-pledge.jp/associate/rocinantes/